

## 第9回道南いさりび鉄道沿線地域協議会

令和7年5月20日追加配布資料

### ・道と沿線市町における負担割合に関する木古内町の意見・考え方

- ・道南いさりび鉄道は沿線市町やその周辺に暮らす住民の大切な交通手段であり、生活を支える重要な公共交通機関であることから、人材確保や経営維持など様々な課題を抱えているが、沿線自治体として今後もしっかりと支援していく。
- ・道南いさりび鉄道は、日本の食料基地である北海道と本州を結ぶ物流の大動脈として重要な役割を果たしており、欠かすことのできない基幹インフラであると認識している。  
その重要性を踏まえ、将来にわたり鉄道を維持・活用するためには、沿線自治体の努力だけでは限界があると考えており、北海道や国全体としての理解と支援、そして財政的負担の分担を強く要望したい。
- ・負担割合については、道南いさりび鉄道においては現時点で「北海道8：沿線市町2」の割合しか前例がないため、今後の協議においても、基本的には「8：2」を基準とするべきという認識を持っている。
- ・道南いさりび鉄道の経営に関しては、今後の車輛更新が重大な影響を与えるものと認識しており、負担割合の協議と併せて議論していくべきと考えている。
- ・負担割合の協議に加え、道南いさりび鉄道が道南観光の移動手段や道産品の流通など北海道全体の物流を支えているという視点から、新たな財源の確保策として、例えば北海道宿泊税の活用を検討することも一案ではないか。